

植物エキスの働き①

現代の環境悪化により免疫力が低下し、外界からの刺激を受け易く、敏感な方が増えています。
免疫力をあげ、健康な状態へと近づける植物エキスが自然治癒力を活性化します。



★アロエエキス
 (起源) アオイ科植物「ビロウドアオイ」の葉または葉から抽出したエキスです。
 成分として黏液質を多く含んでいて、その主成分はペントサン、グラ
 (特性) 保湿効果が非常に高く、肌を保護します。
 その他、マイルドな引き締める効果があるので、肌のきめを整える効果があります。



★クララエキス
 (起源) マメ科植物「クララ」の葉から抽出されたエキスです。
 成分としてアルカロイド、フラボノイドなどを含んでいます。
 (特性) 消炎効果、抗腫効果などが期待され、肌をすこやかに保ちます。



★スギナエキス
 (起源) トクサ科植物「スギナ」の全草から抽出されたエキスです。
 成分として、フラボノイドなどを含んでいます。
 (特性) 収れん作用があり、肌を引き締める効果があります。



★マダニ根皮エキス
 (起源) クワ科植物「クワ」「マダニ」又はその同属植物の根皮から抽出されたエキスです。
 成分としてトリテルペノイド、フェニルフラボン糖錐体などを含んでいます。
 (特性) 消炎効果、抗腫効果などが期待され、肌をすこやかに保ちます。



★アルニカエキス
 (起源) キク科植物「アルニカ」の花から抽出したエキスです。
 成分としてフラボン、タンニン、トリテルペノールなどを含んでいます。
 (特性) 消炎効果、血行促進効果などが期待され、皮膚をすこやかに保ちます。



★コンフリーエキス
 (起源) ムラサキ科植物「ヒレハリソウ」の葉から抽出されたエキスです。
 成分としてアルカロイドのコンフリージン、タンニンの他、アラントイン、ビタミンB1、B2、B12、α-ヒドロキシ酸、バントニン酸など
 (特性) 消炎効果、抗酸化効果などが期待され、皮膚をすこやかに保ちます。
 また肌荒れを防ぐ効果もあります。



★セイヨウキスダマシエキス
 (起源) ウコギ科植物「セイヨウキスダマシ」の葉から抽出されたエキスです。
 成分としてサポニン、タンニンなどを含んでいます。
 (特性) 消炎効果、収れん効果、鎮痛効果があるので、肌荒れ防止、キメ細かい肌を整えます。



★トウキンセンカエキス
 (起源) キク科植物「トウキンセンカ」の花から抽出されたエキスです。
 成分としてタンニン、トリテルペノール、サポニンなどを含んでいます。
 (特性) 皮膚の柔軟性を保つ作用があります。また、消炎作用が期待され、肌をすこやかに保ちます。



★カミツレエキス
 (起源) キク科植物「カミツレ」の花から抽出したエキスです。
 成分としてカマズレン、アズレン、ビサボロール、フラボノイドなどを含んでいます。
 (特性) 抗腫効果、血行促進効果などが期待され、皮膚をすこやかに保ちます。



★シソエキス
 (起源) シソ科植物「シソ」の葉、又は近縁植物の葉及び枝葉などから抽出されたエキスです。
 成分として、ペリラルデヒドやリモネンなどの精油成分を多く含んでいます。
 (特性) 収れん作用があり、皮膚を引き締める効果があります。
 また抗腫効果、消炎効果、酸化防止効果、血行促進効果が期待され、皮膚をすこやかに保ちます。



★セイヨウコギリノエエキス
 (起源) キク科植物「セイヨウコギリノエ」の全草から抽出されたエキスです。
 成分として精油成分、糖アルカロイドなどを含んでいます。
 (特性) 収れん作用があり、肌を引き締める効果があります。
 また消炎効果、抗腫効果などが期待され、肌をすこやかに保ちます。



★ポタンエキス
 (起源) ボタン科植物「ポタン」の根の皮から抽出されたエキスです。
 成分としてペオニフロリン、アラントインなどを含んでいます。
 (特性) 消炎効果、抗酸化効果、血行促進効果などが期待され、皮膚をすこやかに保ちます。



★カワラヨモギエキス
 (起源) キク科植物「カワラヨモギ」の花茎から抽出したエキスです。
 成分としてフラボノイド、タンニンなどを含んでいます。
 (特性) 収れん作用があり、肌をひきしめる効果があります。



★シャクヤクエキス
 (起源) ボタン科植物「シャクヤク」の根から抽出されたエキスです。
 成分としてペオニフロリン、オキシペオニフロニン、タンニンなどを含んでいます。
 (特性) 収れん作用があり、肌を引き締める効果があります。



★セージエキス
 (起源) シソ科植物「サルビア」の花から抽出したエキスです。
 成分として精油成分、フラボノイド、タンニンなどを含んでいます。
 (特性) 血行促進効果、消炎効果、酸化防止効果、抗腫効果などが期待され、皮膚をすこやかに保ちます。



★ユキノシタエキス
 (起源) ユキノシタ科植物「ユキノシタ」の全草から抽出されたエキスです。
 成分としてタンニン、フラボノイドなどを含んでいます。
 (特性) 抗酸化作用が期待され、肌をすこやかに保ちます。
 また保湿効果があるため、肌うるおいを与えます。

植物エキスの働き②

現代の環境悪化により免疫力が低下し、外界からの刺激を受け易く、敏感な方が増えています。
免疫力をあげ、健康な状態へと近づける植物エキスが自然治癒力を活性化します。



★ タバエアインベキ/牛樹皮エキス
 (起源) ブラジルの国産・アマゾン川流域に自生するバウダルコという樹木のエキス。
 (特性) 抗炎症、美白、老化防止



★ゼニアオイエキス
 (起源) アオイ科植物「ゼニアオイ」の花から抽出したエキス。成分として粘多糖アムニシアン系色素のマルピンなどを含んでいます。
 (特性) 保湿効果が高く、皮膚を保護します。また抗酸化作用が期待され皮膚を健やかに保ちます。



★ゴボウエキス
 (起源) キク科植物のゴボウの根から抽出されたエキスで、イヌリン、タンニン、多糖類を多く含む成分です。
 (特性) 保湿効果、収斂効果、フケ・脱毛予防効果、発汗・血行促進効果があり、うるおいを与え、肌のキメを細かく整える目的で多くの化粧品に配合されています。また、種子には解熱、消炎、利尿作用があるので腫れ物の薬として漢方薬で使われています。



★甘草エキス
 (起源) マメ科植物カンゾウ(甘草)またはその根属植物の根、茎から採られるエキスです。
 (特性) グリチルリチンを多量に含んでおり、抗アレルギー作用、抗炎症作用、副腎皮質ホルモンなどの作用を持っています。肌あれを防ぎ、にきびを予防する化粧品や、かみゆきを防ぐヘア製品に使われています。



★トリスレウロスヘルムムドマドマエキス
 (起源) フランスブルタニエ地方海岸部に生息する草花の根から抽出エキス。
 (特性) アセチルコリン分泌調節による表情筋リラックス効果。保湿クリームや栄養クリームに上位で導入。



★サクラ菜エキス
 (起源) ばら科植物「サクラ」の葉から抽出したエキスです。成分としてフラボノイドやクマリン類誘導体を含んでいます。
 (特性) 保湿作用が高く皮膚を保護します。また保湿化粧品による一次刺激を抑制する効果が期待されます。



★アロエフェロックスエキス
 (起源) アロエフェロックスはケープアロエの学名です。ケープアロエの葉からとれる植物エキスで、養育作用などが知られています。
 (特性) 化粧品には保湿目的で使用されています。



★ニンニクエキス
 (起源) ニンニクは古代エジプトから利用していたといわれ、日本でも漢方薬物に登場するなど強壮剤としての効能が高い歴史を持ちます。もちろん中国でも漢方薬ののひとつとして使われています。
 (特性) 抗菌効果や皮膚細胞の活性化があるので、肌を清潔に保ち皮膚のトラブルを解消する目的の化粧品に配合される。フケ、カユミ防止、育毛効果のある頭皮用化粧品に配合されている。



★フコポダイジュ
 (起源) シナノキ属。コバシナノキ科属大い樹冠を形成します。葉は楕円からハート型長さは約1-1.0cm位です。葉に芳香が強く小さな淡黄色の花を咲かせます。寒い地域向き。
 (特性) 保湿、不揮発性、高保湿成分として粘多糖アムニシアン系色素のマルピンなどを含みます。



★オドリコソウエキス
 (起源) シソ科植物、オドリコソウの茎、葉、花から抽出したエキス。成分には、タンニン、フラボノイド、生体アミン(ヒスタミン、チラミン、メチラミン)が含まれる。
 (特性) 消炎効果、収斂効果があるので、肌荒れを防ぎ、肌のキメを整える目的の化粧品に配合されている。



★ユス果実エキス
 (起源) ミカン科植物ユズ(柚子)からエタノール溶液で抽出されたエキスで、成分としては有機酸、精油成分などを含んでいます。
 (特性) 収斂効果、保湿効果がありますので、肌のキメを整え、潤いのある肌を維持する目的で、化粧水や美容液などの化粧品に幅広く配合できます。



★オランダカラシエキス
 (起源) アブラナ科の多年草です。ヨーロッパが原産ですが、今では世界各地に普及しています。わが国へは、明治時代の初めに渡来しました。
 (特性) 血行促進作用・皮膚細胞活性化作用があり、エイジングケアを目的とした化粧品に配合されています。また、発毛促進効果があります。



★ヒメアワロ
 (起源) 絶滅危惧種。フウソウ科・花葉類。別名：花葉類。石灰質地、乾燥地などに生息。法属・岐阜・三重・四国に分布。中国、西アジア、ヨーロッパ、北アフリカ、南北アメリカ。
 (特性) 肌の基礎層を保護、光老化現象防止、トリプターゼ抑制効果。血行促進、肌のハリを保ちしわ対策、美白。



★ローズマリーエキス
 (起源) シソ科植物、マンネンロウの葉や花から抽出した芳香性のあるエキス。成分に精油、フラボノイド、タンニンを含み、とくにロズマリン酸を多く含む。
 (特性) 抗菌性、抗酸化効果、消炎効果に優れているので、ニキビ、肌あれ、アンチエイジングを目的に配合されている。育毛作用もあり、脱毛、フケ予防に利用。



★オタネニンジンエキス
 (起源) ウコ平科のオタネニンジン根から取られるエキス。または薬用のオタネニンジンエキスから取られるエキスです。オタネニンジンとは別名、チョウセンニンジン、コウキニンジンといわれ強壮、健胃の薬に使われてきました。
 (特性) 代謝促進作用、血行促進作用があり、肌荒れ、小じわ、にきび、脱毛、ふけ防止を目的とした化粧品に配合されています。



★マツエキス
 (起源) マツ科植物のセイヨウアカマツの球莖を水やプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコールなどで抽出してつくられたエキスです。成分は多糖類、アミノ酸類が含まれています。
 (特性) 保湿作用、柔軟作用があるので乾燥から肌を守り、キメを整えしなやかな肌にする目的の幅広い化粧品に配合されています。